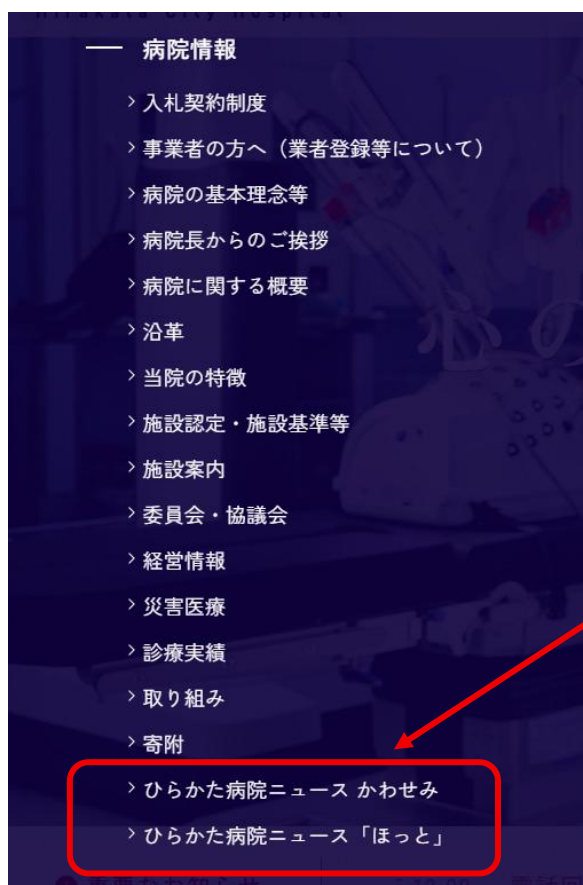


皆様、市立ひらかた病院ニュース「ほっと」をご存じですか？ちょっと気になる病院のあれこれを市民の皆様に分かりやすく楽しくご紹介する季刊誌です。北河内地域の開業医さん向けの病院ニュース「かわせみ」と対をなす、当院からの情報発信ツールの1つです。 **ここをクリック**



だいぶ奥に隠れておりますが(笑)、頑張って見つけて下さい！

ここをクリック

進化する 糖尿病センター

～ライフステージ特有の
糖尿病とは～

ライフステージ特有の糖尿病は、
まだ社会に十分認知されているとは
言えません。当センターでは、多職種による
チーム医療を通じて、すべての世代に先進的・専門的な糖尿病治療を提供します。



“妊娠糖尿病”をご存じですか？

妊娠中に血糖値が高くなる糖代謝異常には、「**妊娠糖尿病**」「**妊娠中の明らかな糖尿病**」と「**糖尿病合併妊娠**」があります。妊娠するとインスリンの効きが悪くなり、特に妊娠後半に血糖値が上がりやすくなります。妊娠中のお母さん(母体)が高血糖になると、母体だけでなく赤ちゃんにも合併症をもたらすため治療が必要です。妊娠糖尿病を適切に治療することで、巨大児や妊娠高血圧症候群の合併が防げ、帝王切開が減少するという研究結果があります。妊娠糖尿病と診断されたら、分割食を中心とした食事療法・血糖自己測定・必要に応じたインスリン治療を行い、血糖値を健常妊婦さんに近い状態にコントロールすることが大切です。安心安全なお産のために当院産婦人科と協力して妊婦さんを支えます。

“小児・思春期糖尿病”への理解を深めたい

小児・思春期に発症する糖尿病は、成人の糖尿病とは異なります。小児・思春期糖尿病は、インスリンの絶対的な欠乏から生涯インスリン注射を必要とする「**1型糖尿病**」で発症する場合もあれば、肥満を背景に食事・運動療法による生活習慣の改善が基本となる「**2型糖尿病**」で発症する場合があります。小児・思春期糖尿病の患者さんは、糖尿病を持ちながら成長・発達し、糖尿病を持った成人となります。従って血糖コントロールだけにとらわれず、健やかな心理状態や成長・発達にも配慮した支援が必要です。できる限り制限されない家庭生活・学校生活を送れるよう配慮します。当院小児科と協力しながら、多職種による専門的な糖尿病チーム医療で彼らの健やかな成長を支えます。

「糖尿病センターだより」をご存じですか？

“主任部長と素敵な仲間たちの日常診療にまつわるあれこれ”をテーマに、毎月1回皆様に心温まる「糖尿病センターだより」をお届けしています。2024年3月から始まり2周年を迎えました。皆様のご感想をお聞かせいただけますと幸いです。

糖尿病センターだより

<https://hirakatacity-hp.osaka.jp/departments/diabetes/diabetesletter>



柴崎 早枝子 医師
糖尿病・内分泌内科(糖尿病センター)
主任部長兼 糖尿病センター長

最新の糖尿病治療をご希望の患者さんは、かかりつけ医にご相談の上、
本院「糖尿病センター」を受診して下さい。

「あなたらしさ」を支える 緩和ケア病棟

「緩和ケア」という言葉をご存じでしょうか。がんなどの病気によって生じる、様々な痛みや苦しみを和らげ、そのらしい生活を送れるようにサポートをすることです。本院では緩和ケアを専門に行う病棟があり、チーム医療で患者の皆様とご家族を支えています。

この病棟では、痛みのコントロール・検査を主にを行い、症状が高潮していたら、退院して自宅に帰ることもできます。病気による「つらさ」は、身体的な苦痛だけではなく、精神的な面や社会的な面など、様々な要因が組み合っています。複雑な「つらさ」を抱える患者の皆様とご家族に寄り添い、支えていくことが、緩和ケア病棟の役割です。

緩和ケア病棟ホール
ソファ・ダイニングセットなどを設けており、ご自由にお過ごしいただけます。

病床はすべて個室
緩和ケア病棟は最上階の7階にあります。ベッドは全部で20床あり、すべて個室です。特別室が2室、有料個室が8室、無料個室が10室あります。

面会の制限はありません
患者さんとの面会は24時間可能。付き添いもしていただけます。ご家族のケア面での負担を軽減しながら、自分の家にいるようにゆったりとした時間を過ごすことができます。

患者の皆様とご家族をチームでサポート
本院には緩和ケア専門医のほか、緩和ケア認定看護師・がん疼痛認定看護師などの資格を持つスタッフがいます。また、各分野の専門家がチームとなり、連携して患者さんを支えます。

医師 看護師 ケアに向けた、多職種間の体系的なコーディネート	MSW (ソーシャルワーカー) 経済面・生活面で の負担や社会的制 度の利用調整	臨床心理士 臨床宗教士 精神面の苦痛や 悩みに対するケア	薬剤師 痛みをコントロ ールする薬の管理や 副作用の予防	管理栄養士 患者さんの状況に あった食事や栄養 面のサポート	理学療法士 作業療法士 からだの機能を解 放するためのリハ ビリを実施
--	--	---	--	--	---

特設病室
寝たまま、連つまま入浴できます。

家庭室
ご家族が休養できます。

季節の贈りつけやイベントも

病棟の見学ができます
平日14時～16時のあいだ、病棟の見学ができます。お気軽にお問い合わせください。
担当：7階西病棟(緩和ケア病棟)
☎ 072-947-2821(代表) 受付時間：平日9時～16時
※見学日を調整しますので、必ず事前にご連絡ください。

緩和ケア病棟に入院するには・・・
まず「緩和ケア外来」での面談が必要です。くわしくはお問い合わせください。
担当：医療相談・連絡室 緩和ケア担当
☎ 072-947-2821(代表) 受付時間：平日8時30分～17時

進化する 糖尿病センター

～ライフステージ特有の 糖尿病とは～

ライフステージ特有の糖尿病は、まだ社会に十分認知されているとは言えません。当センターでは、多職種によるチーム医療を通じて、すべての世代に先進的・専門的な糖尿病治療を提供します。

「妊娠糖尿病」をご存じですか？
妊娠中に血糖値が高くなる糖代謝異常には、「**妊娠糖尿病**」「**妊娠中の明らかな糖尿病**」と「**糖尿病合併妊娠**」があります。妊娠するとインスリンの効きが悪くなり、特に妊娠後半に血糖値が上がりやすくなります。妊娠中のお母さん(母体)が高血糖になると、母体だけでなく赤ちゃんにも合併症をもたらすため治療が必要です。妊娠糖尿病を適切に治療することで、巨大児や妊娠高血圧症候群の合併が防げ、帝王切開が減少するという研究結果があります。妊娠糖尿病と診断されたら、分割食を中心とした食事療法・血糖自己測定・必要に応じたインスリン治療を行い、血糖値を通常妊娠さんに近い状態にコントロールすることが大切です。安心安全なお産のために当院産婦人科と協力して妊婦さんを支えます。

「小児・思春期糖尿病」への理解を深めたい

小児・思春期に発症する糖尿病は、成人の糖尿病とは異なります。小児・思春期糖尿病は、インスリンの絶対的な欠乏から生涯インスリン注射を必要とする「1型糖尿病」で発症する場合もあれば、肥満を背景に食事・運動療法による生活習慣の改善が基本となる「2型糖尿病」で発症する場合もあります。小児・思春期糖尿病の患者さんは、糖尿病を持ちながら成長・発達し、糖尿病を持った成人となります。従って血糖コントロールだけでなく、健全な心理状態や成長・発達にも配慮した支援が必要です。できる限り制限されない家庭生活・学校生活を送れるよう配慮します。当院小児科と協力しながら、多職種による専門的な糖尿病チーム医療で彼らの確やかな成長を支えます。

「糖尿病センターだより」をご存じですか？
「主任医師と専任の仲間たちの日常診療にまつわるあれこれ」をテーマに、毎月1回皆様にご覧いただける「糖尿病センターだより」をお届けしています。2024年3月から始まり2周年を迎えました。皆さんのご感想をお聞かせいただけますと幸いです。

糖尿病センターだより
<https://hirakatacity-hp.osaka.jp/departments/diabetes/diabetesletter>

最新の情報をお届け
〒599-8501 大阪府河内郡柏原市南町1-1-1
〒599-8501 大阪府河内郡柏原市南町1-1-1

最新の糖尿病治療をご希望の患者さんは、**かかりつけ医にご相談の上、本院「糖尿病センター」を受診して下さい。**

多職種が参加する「糖尿病チーム治療」を提供すると共に、特に専門性が問われる「ライフステージ特有の糖尿病治療」にもしっかりと対応してまいります。北河内地域の皆様に、糖尿病と言えは“市立ひらかた病院さん”と仰っていただけのように、これからも頑張っていきたいと思えます！